Ⅰ章　特性と課題の抽出

1. 自然 …… 8
2. 歴史 …… 13
3. 生活空間 …… 17
4. 街並みの変化 …… 29
5. 特性と課題の抽出のまとめ …… 32

Ⅰ章　特性と課題の抽出

本区は地形的な変化に富み、寺社や史跡、街角の石造物など歴史的にも価値のある景観資源が点在しています。

また、建築物の配置・構成や道路形状といった生活空間が醸し出す景観資源や、時間的な景観の変化も本区の景観を考えていく上で重要な要素となります。

そこで、本章では、本区の景観を「自然」「歴史」「生活空間」「街並みの変化」の四要素に分け、その特性と課題を明らかにします。

1. 自然

(1) 地形

本区の北西から南東へせりだした台地を大小の河川が浸食した結果、台地と低地が入り組んだ地形が形成されており、地形によって、特徴的な景観がみられるため、以下のように分類します。

ア. 特性

(ア) 開放感のある台地(高位面)

- 台地上にみられる平坦地は、台地上部が周辺に比べ高くなっているために囲まれた感じがなく開放感が感じられます。また、道路が直線的に通っている部分は、見通せる場所となりやすくなっています。

(イ) 均一な広がりをもつ台地(低位面)

- 区の中央には、わずかな勾配をもった台地が広がっており、広範囲にわたって地形的な変化が少ないため、面的に一様な景観をつくり出しています。

(ウ) つながり・まとまりを感じさせる谷あい低地をはさむ斜面

- 河川の支流などがつくり出す景観として、谷あい低地を両側からはさむ斜面により構成されるU字形の空間は、斜面間の距離が近いため、まとまった空間として意識されます。

起伏の多い地形(三折坂)

斜面地の戸建て

（エ）線的につながり縁を形成している斜面地

- 台地から低地にかけて、ある部分では緩やかに、またある部分では急傾斜の斜面がみられます。これらの斜面には区内を見渡せる場所が多数存在しており、青葉台にある西郷山公園からは広範囲を見渡すことができます。

（オ）周辺にくらべ低くまとまりをもった、面的に広がる谷あい低地

- 目黒川と呑川周辺には、面的な広がりをもつ大きな谷あい低地があり、特に目黒川沿いは南北に軸性をもつ低地のまとまりを感じさせる所となっています。呑川沿いの谷あい低地は、「く」の字に大きく蛇行しているために一方向への広がりはあまりなく、囲まれ感を持っています。

イ. 課題

（ア）区を特徴づけるために活かしていく地形

- 大きな高低差は少ないものの、台地と低地が入り組んだ地形は区を特徴づける自然の要素です。このような地形を活かすことが、目黒区らしい景観を形成するうえで必要です。

（イ）視点場としての可能性をもった斜面地

- 区内に存在する傾斜地の多くには、区内又は富士山まで眺望できる場所が存在しています。街並みをも確認できる場所であるため、良好な視点場を守っていくことが必要です。

（ウ）景観的に一体的にとらえるU字形の空間

- 目黒川、蛇崩川、立会川、呑川などの本流及び支流により形成された谷あい低地を挟む斜面から構成されるU字形の空間については、特徴的なこの空間のつながりを活かし、地形の変化を活かす景観づくりが必要です。

(2) みどりと水

区内の河川、水辺や樹木など、景観的な特徴によって、以下のように分類します。

ア. 特性

（ア）幹線道路などのみどり

- 山手通り・環七通り・目黒通りなどの幹線道路や駒沢通りは、東西方向あるいは南北方向に区を横断しており、沿道の街路樹により、みどりの連続性を生み出しています。

（イ）街路樹のある道

- 幹線道路以外にも街路樹のある道があり、幹線道路ほど交通量が多くはなく、人々が安心して歩けます。そのなかには、周辺の民有地のみどりと補完し合いながら、豊かな歩行者空間をつくっている道が多くあります。

（ウ）歩行者のためのみどりの散歩道※

- みどりの散歩道は、目黒川沿いや、河川を暗渠化して整備した緑道に沿って設定されており、住宅地の中にあって、連続したみどり豊かな貴重な空間となっています。

(エ)みどりの多く残る地域

- 八雲や青葉台などに代表される戸建住宅地には、みどりが多く残っており、安定した住宅環境を保っています。

(オ)大きなみどりの広がり

- 東京大学、東京工業大学、防衛技術研究所等の公的機関や寺社境内地のみどりを中心に、街の中に大きなみどりの広がりがみられます。このようなみどりの広がりは心をなごませ、貴重な自然環境として、地域のシンボル的な空間となっています。

(カ)比較的大規模な公園・緑地

- 区内には、区立公園として、駒場公園、駒場野公園、菅刈公園、西郷山公園、東山公園、中目黒公園、碑文谷公園、都立公園として、駒沢オリンピック公園、林試の森公園などのような広域的に利用されている公園があります。これらの公園にはみどりが多く、景観上重要です。

(キ)水に親しめる空間

- 碑文谷公園など、区内の公園には水に親しめる空間として整備されているところもあります。
- 目黒川と呑川の一部が開渠河川であり、清流復活事業により水環境が改善されたことから親水空間として、地域のシンボルとなっています。

みどり豊かな住宅地(中根周辺)

大規模な緑地(林試の森公園)

総合運動公園(駒沢公園)

住宅地内の緑道(呑川緑道)

イ. 課題

(ア)区全域の緑化の推進

- みどりの基本計画に基づき、区全域で緑化を推進していくことが必要です。
- 区内にみどりを増やしていくために、現在あるみどりの広がりをより広げていくことも効果的です。公園や緑道、大規模施設に存在するみどりの広がりを活用し、周辺に潤いと、ゆとりを与えていく必要があります。
- 区内に残されている樹木や大木は、貴重な景観資源※として保全していく必要があります。

(イ)地域の緑化の推進

- 地域の特性に応じてみどりの保全・創出やオープンスペース※等の確保を進めていくことが必要です。
- 住工混在地、商業地、木造密集地などのみどりの少ない地域では、人々が潤いを感じるみどりの確保を考えていく必要があります。

(ウ)四季折々に楽しめるみどりの配置

- 四季の変化に応じて楽しめるみどりを増やしていくことで生活の中に季節感を感じることができます。そのため、このような四季を感じさせる植物を効果的に配置する必要があります。

(エ)みどりの軸の充実

- 区内にみどりの連続性を作るため、みどりの軸の充実が必要です。そのため目黒通り、駒沢通り、目黒川、補助26号線、呑川に沿って、みどりのネットワーク化を図る必要があります。
- 目黒川については、川沿いの建築物の景観形成と併せて、整備を進め、建築物と河川が一体となったみどりの軸としての良好な景観形成を図っていく必要があります。

(オ)街路樹の適正な管理

- 幹線道路、補助幹線道路は利用者にとって区を印象づけるものであるため、みどりの連続性に配慮した街路樹の適正な管理を行うことが必要です。

(カ)みどりのネットワーク

- 「みどりの散歩道」を中心として周辺の公園や街路樹、社寺のみどりなどをつなぎ、厚みと広がりのあるみどりのネットワークを広げていくことが必要です。

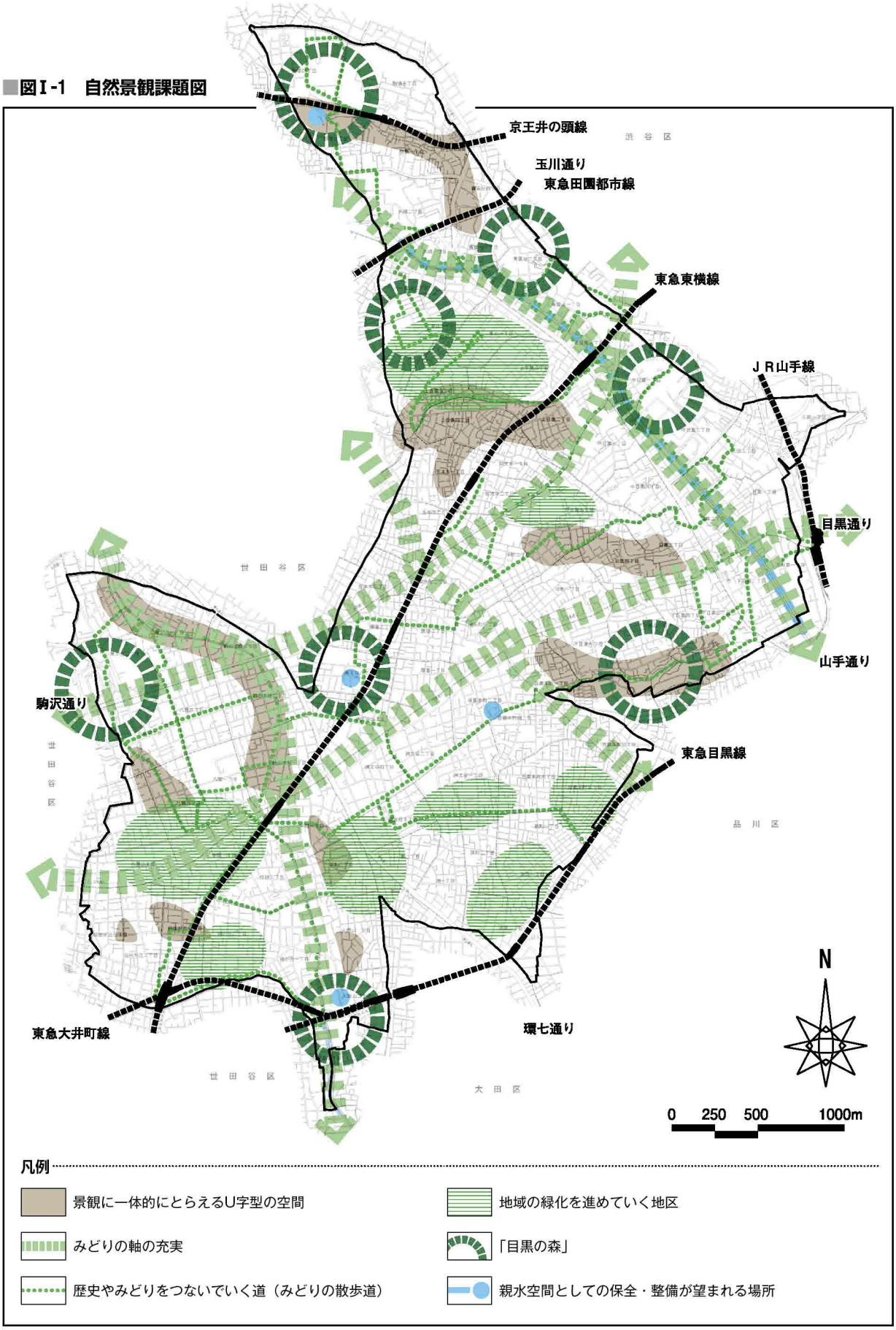
(キ)「目黒の森」※の保全・創出

- 「目黒の森」の核となる公園など比較的大規模な公園・緑地を中心に、みどりの保全・創出を図っていく必要があります。

(ク)親水空間の整備

- 駒場野公園、碑文谷公園、清水池公園や東京工業大学の敷地内にある池は、貴重な水辺空間として保全・活用する必要があります。
- 開渠河川である目黒川と呑川の一部は、河川空間としてさらに良好な景観形成を図っていく必要があります。

■図Ⅰ-1　自然景観課題図


京王井の頭線
玉川通り
東急田園都市線
東急東横線
ＪＲ山手線
目黒通り
山手通り
駒沢通り
東急目黒線
東急大井町線
環七通り
渋谷区
世田谷区
品川区
大田区
N
0 250 500 1000m
凡例
景観に一体的にとらえるU字型の空間
みどりの軸の充実
歴史やみどりをつないでいく道（みどりの散歩道）
地域の緑化を進めていく地区
「目黒の森」
親水空間としての保全・整備が望まれる場所